

(規則) 様式第7 (第7条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和4 年 5 月 26 日

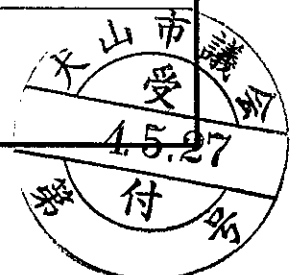
犬山市議会

議長 三浦 知里 様

ビアンキ アンナ 議員名

下記のとおり、研修会の成果を報告いたします。(全国地方議会サミット2022)

(1)年月日 令	4年 5月12日(木)~4年5月13日(金) (1泊2日)
(2)場 所	早稲田大学大隈講堂
(3)形 態	会派(新大会):その他()
	別紙 添付



1 日目

チーム議会で取り組む「自己決定・自己責任」の地方自治

北川 正恭 早稲田大学名誉教授/元三重県知事

一人一人の多様な幸せを実現する デジタル庁のミッション

牧島 かれん デジタル大臣

住民自治と多様な議員で構成された活力ある議会

江藤 俊昭 大正大学社会共生学部教授

寺沢 さゆり 長野県長野市議会 議長/全国市議会議長会 副会長

伊波 篤 沖縄県読谷村議会 議長/全国町村議会議長会 理事

各地からオンライン登壇も!オンライン議会の展開事例

千葉 茂明 月刊「ガバナンス」編集主幹/コーディネーター

清水 克士 滋賀県大津市議会 議会局長

「なぜオンラインが必要なのか—大津市議会の経験から」

岩崎 弘宜 茨城県取手市議会事務局次長

「こんなこともできる!オンライン—取手市議会デモテックへの取り組みから」

中野 智基 愛知県知立市議会 議長

「議会オンラインへの対応と市民とつながる・深まる議会改革」

松尾 徳晴 福岡県春日市議会 議長 米丸 貴浩 福岡県春日市議会議員/広報広聴委員長

「市民とつながる—『議員と語ろう 議会報告会』オンライン」

多様な議員の一般質問を議会の政策形成へ

土山希美枝 法政大学法学部教授/コーディネーター

西原 浩 北海道別海町議会 議長

「一般質問検討会議から議会の政策形成へ」 実践

青野 敏 北海道鷹栖町議会議員 片山 兵衛 北海道鷹栖町議会議員

「一般質問でまいたタネを市民と共有し議会の政策形成へつなげる」

2日目

コロナ2年の経験をどう活かしていくか!?

廣瀬 克哉 法政大学総長

地方議会における男女共同参画の推進と実践

林 紀行 日本大学法学部教授/コーディネーター

永野 裕子 東京都豊島区議会議員 出産議員ネットワーク呼びかけ人

「出産・子育てと議員活動の両立両立支援のための体制整備」

高橋たい子 宮城県柴田町議会 議長

平間奈緒美 宮城県柴田町議会 副議長

「正副女性議長が取り組む柴田町議会の男女共同参画の推進」

速報!議会改革度調査ランキングとトレンド

中村 健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

Z世代にも届く！ デジタルを活用した広報・広聴

古井 康介 株式会社POTETO Media 代表

小林 真子 ZEXT 代表

吉永 一輝 ZEXT 副代表

いまこそ問われる！ 地方自治と議会の役割

片山 善博 大正大学社会共生学部 教授/元総務大臣

*非常に充実した研究会でした。参考資料は非常に多かったです。完全にペーパーレスなのでウェブサイトにご参考ください。

**「多様な」は一つな大きなテーマでした。新型コロナウイルス感染症をはじめ多様な課題、参画、政策形成等々。地方議会には、の解決へ向けて、多様な意見の集約と政策への反映、デジタル活用においては、委員会のオンライン開催や、政治分野における男女共同参画の推進も求められるなど、議会の多様性の確保への体制の整備も迫られています。

***次のページにおもうな印象や犬山市議会に肝心な所を述べさせます。

最初の北川先生のスピーチに一番大事なポイントと思い重視しました。議員間討議と議会活動の促進です。この議員間討議を上手に活用してない、又は議会活動を大事にしていないうちなら機能した議会にならないです。議員同士が議論しないと、議会として物事が決めることができない。言うまでもなく 一人ひとりの議員活動や発言は大事ですが、議会の集約した意見の方がずいぶんと重みがあることには間違いありません。そのことをずっと気にかけていました。日本では一般的に議員は議会の構成員としての認識と議会の権限に対する意識の低さは問題だと思いました。うちの議会はマシなほうと思います。なぜならば議員間討議ができる場ば作ってあります。十分活用しているかは別の課題です。北川先生も議長のリーダーシップも重視しました。経験者としてこれもとても大事だと思っております。議長になりたい理由、それを実現する努力は一般的に足りないと思っております。議長のしっかりした指導がない議会はかじ取りのいない船になります。私は議長の時、開会と閉会の挨拶を活用した、議会の方向を示すため。現在その挨拶ができなくなったのは通年議会になったことで様々な欠点が出てきた一つと感じています。

議員間討議にちょっと関連したのは「多様な議員の一般質問を議会の政策形成へ」のセッションでした。二つの話がありました、「一般質問検討会議から議会の政策形成へ」と「一般質問でまいたタネを市民と共有し議会の政策形成へつなげる」。市民と質問などを共有するのはとても大事だと思います。こちらでまるで週刊文春見たいな議会報を作っています。とても面白かったが、個人的にギミック的すぎるような気がしました。一般質問検討会議から議会は議員同士が質問をレベルアップするための所です。お互いにアドバイスする、場合によっては質問を次のチャンスでやり直す。これもいいんですが、これまでの職業訓練中の必要性にも疑問に思います。もう少しどうやってこれを活用して、行政にぶついたり、具体的な成果の説明が足りなかった場合、先ほども述べたが我々が全協の議員間討議の時間がありますが、最近十分活用していないような気がします。「速報!議会改革度調査ランキングとトレンド」と言うセッションでいくつかの成果が出た例もありました。そちらの議会の仕組みをもっと聞きたかったです。

ネット会議委員会と本会議の可能性やコロナの話が複数のセッションに出ました。ある学者が解釈については、今でもできるという発言がありました。実はこれは基本的に話がありすぎと思います。ネット会議は停電のバックアップ発電機の扱いにした方がいいと思います。活用できる準備すべきですが、使うのは必要な時だけ。各議会がどんな場合に必要かというのは前もって決めるべきです。具体的な例が清水 克士 滋賀県大津市議会 議会局長 「なぜオンラインが必要なのか―大津市議会の経験から」がありました。

このテーマと同じようなことを感じましたのは、「一人一人の多様な幸せを実現する デジタル庁のミッション」の 牧島 かれん デジタル大臣セッション。DXは新しい流行り言葉になってしまいました。新しいテクノロジーを活用すべきなのというまでもないことです。鉛筆、ワープロ、PCなどですが、話はちょっと誇張すぎです。

最後にコロナのもあちこち出ました。私には寂しい話ですがコロナが日本の議会機能の低さを明確にしました。色な所で先決処分を許しすぎたし、一般質問をカットしたので、より市民の議会の必要性が疑わしいと思われる。そこで北川先生の話に戻ります。まだまだ当たり前ことを当たり前にする努力が必要です。